

熊本大学附属図書館 東光原 NewsLetter No.58 (2026.2)

目次

- ・ 東光原文学賞 受賞者インタビュー ...P.2-3
- ・ 東光原文学賞 表彰式 ...P.4
- ・ 図書館のできごと (2025.9~2026.1) ...P.4
- ・ 第40回貴重資料展を開催 ...P.4

図書館公認キャラクター

くまぼん



令和8年1月16日に発表された

第18回熊本大学東光原文学賞

▶ 表彰式の様子を掲載！

▶ 受賞者全員のインタビューも一挙公開！

発行元: 熊本大学附属図書館



学長賞

郷愁

阿部 雅之

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

個人的に悩んでいたことを昇華させるつもりで書きました。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦勞したことなどを教えてください。

心情描写だけでなく、風景描写も充実させた方が良いことを学びました。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

まずは、チャレンジして応募することだけを考えてみたら良いと思います。

結果はどうかあれ、良い経験になると思います。私はストーリーや書き方などは、好きな作家をお手本にしました。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

芥川龍之介、水上勉、ハッセ、ナボコフ

—質問5)その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

小説を「書く」ことで、読み方の視点も変わってきました。自分の想像以上に良い経験となりました。



附属図書館長賞

島千鈴なる画人の話(落丁あり)

村上 健将

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

自らの正義感とそれを外部にどこまで行使するかという問題、それと同時に自らや他者の持つ欲望との対峙について考えて書きました。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦勞したことなどを教えてください。

舞台となる学舎の幻想性と物語の筋や観念的な会話が反発して、一篇の小説としての統合性が失われていたのが悩みでした。

そこで夏目漱石の『夢十夜』の文章を参考にし、幻想的な舞台に対して物語を白昼夢のように描写することで解決しました。

私の中では、それが一つ達成であり、今回の東光原文学賞に参加したことで得た成果だと考えています。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

まず、何かを書こうという意味そのものが重要だと思います。

実際に書けるかどうかや巧拙は置いておくとして、小説を書くということが頭の片隅にあるだけで世界の見方が変わります。

自分が自分の世界しか知らないことを感じ、他者の世界に関心を抱く機会として書く意識は大切です。

その上で、自身の価値観や心が揺れるインプットが大事だと思います。

それが積もった結果、自然と何か書かずにはいられないという形が、無理して捻り出すよりも作品にも精神的にもいいのではないのでしょうか。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

ミヒャエル・エンデが好きです。それから谷崎潤一郎と山尾悠子、村上春樹が好きです。

おすすめの作品は坂口安吾の「白痴」です。



附属図書館長賞

どうぞこの手を取ってください

吉野 美羽

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

最近家族の形について考えることが多く、それを形にした作品です。

家族はどこまで離れたら家族ではないのか、家族の役割はいつまで続くものなのか。

作品を書きながら深く考えることができました。これからずっと考え続けていくテーマの一つだと思います。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

食べ物の描写は非常に楽しんで書きました。

登場人物の数が多く、それぞれを詳細に書こうとすると文字数が膨れ上がってしまい、簡潔にまとめるのに苦労しました。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスををお願いします。

作品を他人に読んでもらえる環境に置くことは、創作力を育てる上でとても重要なことだと思います。

そういった意味でも、東光原文学賞は素晴らしい機会だと思いますので、これからもたくさんの方にトライしてほしいですし、

この先も長くこの賞が続いていくことを願っています。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

有川ひろ『植物図鑑』、江國香織『泳ぐのに安全でも適切でもありません』、原田マハ『やっぱり食べに行こう。』、デボラ・レヴィ『ホットミルク』、

柚木麻子『BUTTER』

—質問5)その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

4年間、毎年この賞に作品を応募させていただきました。

東光原文学賞がなければこの分量の作品をコンスタントに書き続けることは出来なかったと思います。

改めて、携わってくださった皆様に感謝を申し上げます。これからも、良い作品が書けるよう努力を続けます。



附属図書館長賞

Sun Girl noNcolor Table Campus

中村 昌稀

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

人は誰しも、何かを諦める経験をしませ。それは叶えなかった夢や目標、誰かとの繋がり等、その人にとって大切な何かかもしれません。

そうやって段々と諦めることに慣れていくことが大人になることなのでしょう。

しかし、人の期待を裏切って、明るい未来を失って、その行為が間違いだと自覚してもなお、前を向くことで初めて叶うものもあるのだということを伝えるために書きました。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

執筆中も二人の心情と過去の出来事だけしか決まっていなかったため、どういう結末を二人が迎えるのか、自分でドキドキしながら書けたことが楽しかったです。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスををお願いします。

・文字しか読んでいないのに、作品の中の世界を錯覚したことがある人。

・言葉にならない景色や感情に圧倒されたことがある人。

・この文章を読んでいる人。

上記のいずれかに該当する人は漏れなく才能があります。今すぐに書いてください。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

芥川龍之介『蜜柑』 青空文庫で読むことが出来ます。コーヒー1杯分の時間で読めるので是非。

—質問5)その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

自分の作品を冊子として残させていただけると、色彩の感謝を。

次は商業誌に残せるように頑張ります。またいつか読んでください。

受賞作品は『熊本大学東光原文学賞作品集』として3月に刊行予定です。図書館内にて無料配布します。また、図書館ホームページでも公開します。図書館ホームページでは、過去の作品集をいつでも読むことができます。

—次はあなたも挑戦してみては？ 次年度もたくさんのご応募をお待ちしております♪



第18回 熊本大学 東光原文学賞 表彰式 (令和8年1月16日開催)

「熊本大学 東光原文学賞」は、熊大生の言語力向上と創造性豊かな学生の育成、さらに地域社会における文学・文化活動の中核となる人材輩出等を目的として、平成20年度に創設され、今年度で18回目を迎えました。熊本大学の前身の旧制五高では、夏目漱石や小泉八雲が教鞭をとっており、卒業生には寺田寅彦、犬養孝、下村湖人、木下順二、中野孝次らが名を連ね、数多くの文化人を輩出しています。

今年度は14篇の応募があり、審査の結果、学長賞1篇、附属図書館長賞3篇を選出し、1月16日(金)にひご未来図書館(中央館)ラーニングcommonsにて表彰式を執り行いました。

選考委員の先生方から、「さまざまな学部・大学院からの応募があり、題材も多岐にわたり、バリエーションに富んだ内容だった」、「今回、受賞した方も残念ながら受賞を逃した方も創作を続けて欲しいと願う」との講評をいただきました。受賞者の皆様、おめでとうございます。惜しくも受賞を逃した皆様、ご応募ありがとうございました。次回作をお待ちしております。



図書館のできごと (2025.9～2026.1)	
9/29～10/10	後期 学生選書員募集 (選書期間: 10/14～10/28) (WEB選書)
10/1～11/5	教員による学生用図書館の推薦(ひご未来図書館(中央館))
10/1～11/30	朝日新聞クロスサーチオプションコンテンツのトライアル
10/8	ひご未来図書館(中央館)内グループ学修室1ネーミングライツ事業契約締結・記念式典
10/15～10/29	後期 文献検索講習会(対面): 全3回
10/17～12/2	ロビー展示「2025年 第1回学生選書祭」(ひご未来図書館(中央館))
10/17～11/14	特別展『第40回貴重資料展関連企画 永青文庫細川家文書 国重要文化財指定記念展』(ひご未来図書館(中央館))
10/20	第4回附属図書館運営委員会
10/21	Web of Science(基礎編)オンライン講習会
10/23～11/27	教員による学生用図書館の推薦(薬学部分館)
10/27～11/30	図書館TAによるイベント「読書の木」(ひご未来図書館(中央館))
10/28～10/30	Elsevier Japan 製品利用オンライン講習会
11/2～11/4	第40回貴重資料展「永青文庫細川家文書 国重要文化財指定記念展」
11/2	第19回永青文庫セミナー
11/19	辞書・事典データベースJapanKnowledge活用法オンライン講習会
11/26	電子ブックKinoDen活用法オンライン講習会
11/27	天草高等学校 ひご未来図書館(中央館)施設見学
12/2～2/2	ロビー展示「ラフカディオ・ハーンと日本の心」(ひご未来図書館(中央館))
12/15～12/19	図書館TAによる相談会(12月)
12/17	水俣高校 ひご未来図書館(中央館)施設見学

12/19	第5回附属図書館運営委員会
1/1～	ACS・OUPでのOA論文出版の掲載料支援開始
1/16	第18回「熊本大学東光原文学賞」学長賞及び附属図書館長賞受賞作品発表&表彰式
1/19～2/18	RapidILLトライアル実施(医学系分館)
1/28～2/10	除籍図書在学生への無料配布(ひご未来図書館(中央館))

「第40回貴重資料展」を開催

『永青文庫細川家文書 国重要文化財指定記念展』

3日間の来場者は532名、学外からも多くの方にご来場いただきました。期間中に「公開講演会・第19回永青文庫セミナー」を開催、こちらにも137名の参加があり「セミナーと展示がリンクしており、とても密度の高い講演でした」「文化財保護制度や貴重資料について、分かりやすく解説していただき、とても勉強になりました。文化財の保護へ至る過程を知ることができ、とても興味深かったです」「いかに細川家が民衆の意見を取り入れ、混乱する肥後を統治しようとしていたかが分かりました。細川家や松井家についてより詳しく学習をしてみたいと感じました」等の感想が寄せられました。



演題一「国の文化財(美術工芸品)保護制度について
— 細川家文書を中心に —
講師: 岡村 一幸 (文化庁文化財第一課文化財調査官)

演題二「加藤家改易から細川家入国へ
— 「天下泰平」と肥後の民衆 —
講師: 稲葉 継陽 (熊本大学永青文庫研究センター長 教授)